

平成29年12月6日（水）

記録：木村・檀崎

<自評>

長橋：役割演技を入れました。失敗したなあと思ったのが、誤るという話で終わってしまったこと。わたしが謝らないで突っぱねたかった。やさしいおじさん、こわいおじさんという発問はいらなかったのかなあと思いました。8人だったので、意見がでるか不安だった。1人謝らないと言う子へどう対応していったらいいか困った。子どもたちが本音で話せるような手立てが必要だったと思った。失敗も認められるような雰囲気を作れたらと思います。

<質疑応答>

参加者A：朝の活動での事前読み。長い話だったが、子どもたちはよく覚えていた。どのようにしたのか。

長橋：月曜の朝にやった。2回読んだ。ポイントを抑えて10分くらい読んだ。事前のワークシートの方が時間がかかった。

参加者B：心情円盤 これまでの取組み。探究の対話（p4c）の経験はどれくらいか。

長橋：心情円盤については4回くらい。道徳と関係ないときに使ったこともある。

探究の対話（p4c）の経験は1年生のときは形に慣れるくらい。2年生になってからは主に学活。道徳では2回くらい。コの字型は2回目くらい。

<グループ協議>

檀崎：まず感想を聞きたい。

参加者C：CBを回している姿を見ると子供の居場所がある集団だと思った。

参加者D：夏休みのJRCで長橋先生に探究の対話（p4c）を教えてもらった。これをまわしたことで話しやすさが出たと思いました。

参加者E：3つの手法があって大変だと思ったけど、2年生だから、いろいろな手法ができて良かったと思う。

参加者A：1年生で遊びながら探究の対話（p4c）を取り組んでいるが、道徳での活用について勉強したい。

参加者F：対話がキーワード。もし自分がこの授業以外に対話の場面をつくるなら、心情円盤を使っていたが、資料の中に自分を登場させて、自分と自分で対話をさせて、最後の感想の部分で、時間配分があるが、他の児童の感想も少し対話できるといいのかなとおもった。

参加者G：対話を中心にした授業を見せてもらった。子供たちがCBを使いながら自分のことをよく考えていた。あやまらないといったことにも「ほんとうに？」と突っ込みたくなるけど、そういう考えも受け入れていた。役割演技をしていたが、きょうのたくやくんの「いわねなければわからないよ」とみんなに言わせてみてどんな気分だったか、などすると自分

の気持ちを考えられるのかなと思った。

参加者H：子供独自のものの考え方が見られた授業だった。謝っても謝らなくてもいいんだったら謝らないといった子を見て、素直に発表できているんだなと思って、その雰囲気がある学級だった。むずかしいと思いながら、面白い授業だったと思う。

参加者I：のびのびと自分の考えを発表できていた。うそをついたりごまかすって書いてあったけど、なぜごまかすんだろうとか、2年生なりに聞いてみたかったな。あの子達だったら、振り返られるのかな。そこまでいけたら生活と結びつけられる。良いと思うことは判断の難しさ。よいと思ってるけどできないこともある。

参加者B：探究の対話（p 4 c）で道徳をやるとまとめられない。こどもがしゃべっているといらいらする。課題もあるが、オープンエンドになるが、長い目で見ればということを考えればいい。台本作って、このパターンをやってって頼むやり方をしていたが、今日は台詞をその場で考えていたんですね。子どもたちは正直にしゃべってるように見えた。安心して言える環境があるんだと思った。

長橋：低学年で話をする、待ってられなくて、質問しながらやってるんですけど、それもいいのか悪いのか……。役割演技は不安でした。謝ると言う方向で終わっていきましたが、もっと役割演技を続けたら面白かったと思いました。

檀崎：対話と役割演技という話題が出ていましたが、時間がないので、対話について話していく。低学年はどの程度まで話せるのか、話していけばいいのか、自分でも悩んでいる。

参加者B：ワークシートを貼っておく。正直に書いたものを見せていいのかというのがあるが、時間内に発表ができなくても、友達の意見を知れるからいいと思う。

参加者F：必ずではないが、中心発問や感想を書いて交流させるときに、赤鉛筆をもって机を回る。コメントはまだかけないので、「見ました」と書く。慣れてくると「なるほど。」「なんで？」と書ける子が出てきた。あとで見返したときに、友達の考えが見える。課題はサインの数を稼ごうとする。

参加者C：対話は時間がかかる。コミュニケーション能力や学級作り。探究の対話（p 4 c）を使って道徳をするのではなく、探究の対話（p 4 c）を使って学級作りをしている学級が道徳の時間のその手法を用いるということ。自分の話を聞いてくれるという安心感。みんなが見ている。存在感がある。立ち歩いていた児童が参加したということもある。探究の対話（p 4 c）と担任の力だと思う。対話と言う、一斉指導より時間がかかる。難しいと思う。

参加者D：謝らないって言ってた子が最後に「ちょっと変わった」って言ったんですね。それはすごいセーフティー。謝らない理由を聞いたかったけど、そういうふうに意見が進んでいけばいいですね。

檀崎：たくさんお話を聞きたいが、付箋紙に意見をお書きください。

<指導講評> 宮城県大河原教育事務所 次長指導主事 我妻 聡美 様

本日のねらいについて子どもたちは真剣に考えていた。

<道徳の目標について>

読む道徳から考え議論する道徳に。従来の道徳は読み物資料から道徳的心情に偏りがちだったが、これからの道徳は資質変換が求められている。今日の授業では、指導過程の3番4番が考え、議論する道徳に当たっていた。

- ・話の続きを考える役割演技
- ・子どもたちがどう取り組むか
- ・やらない子がどうなるか
- ・おじさんの存在が出てくることによる子どもたちのゆらぎ

の4点について注目して見ていた。続きを考えさせところは、資料を自分のこととしてとらえる、自分を見つめる時間。そのときの気持が表れるところ。役割演技は全員にさせたかった。

おじさんの存在によってどうなるか興味深かった。優しいおじさんで違う視点ができる。子どもたちの発言がおもしろかった。指導案に無い発問が出ていて、目の前の子どもたちで考えて授業をしているのを感じた。

<研究について>

- ・失敗は誰にでもあるところをもっと共感させたいと思ったが、事前読みもいいと思った。
- ・ワークシート最後の部分・・・よいとおもったことを進んで行おうとする気持ちを書くところ。展開から繋がる大事なところ。自分にどんなよさや改善があるかを子どもたち一人一人が答えを見つめる場所であるべき。時間の確保を。書き留める時間も評価に繋がる時間でもあるので考えたい。

低学年の発達段階としては、一生懸命しようとする反面、集団生活になれず引っ込み思案になってしまうところ。良いことと悪いことの判断やよいことをしたときのすがすがしさをしっかりと感じさせることも大事。